

## 南アフリカ為替週報

2022年2月10日 | みずほ銀行欧州資金部

&lt;過去1週間の動き&gt;

(2月3日~2月9日)

USD/ZAR: 15.1700~15.5850

ZAR/JPY: 7.40~7.61 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は、南ア資産市場の動向を気に掛けながら、多少の上下動を見たものの、振り返って対ドル、対円共に概ね横ばいから小幅上昇にとどまった。ランドは3日にじり高、4日急反落、週明け7日の下押しを経て、8日に反転上昇、9日に続伸と推移したが、一連の上下動は対ドル、対円に共通しており、値動きだけを見ればランド固有の要因の存在が疑われた。確かに、ランドの値動きは、南ア10年物国債利回りの変化を如実に反映しており(注1)、その意味で南ア固有の要因に反応していたとは言えたものの、その利回りを動かすような南ア固有の要因は見当たらなかった。金融市場全般の目線では、3日の欧州中銀理事会後のラガルド総裁発言、4日の米1月雇用統計などは大きく注目を集めたものの、いずれも金利押し上げ要因で、3日の南ア国債利回り低下とは平仄の合わない値動きと言えた。週明け7日以降、南ア市場の関心は、10日に予定されるラマポーザ大統領の一般教書演説に移っていったが、同演説に対する期待が南ア長期金利低下(国債価格上昇)やランド高につながる材料と読まれたかと言うと、そうは思えなかった。ただ、並行して、南ア株価指数(JSE全株指数)は続伸、9日には直近高値を上抜け、史上最高値を更新した。それ以上に重要だったのは、おそらく、ドル建の同指数が5000台に乗せたことで、直近でも先月20日、昨年6月初頭と、同ドル建指数が5000台に乗せる度にランドは一段水準を切り上げており、なにかしら国外から現地株式市場への資金流入を誘った可能性は考えられた。

&lt;過去1週間に発表された主要経済指標等&gt;

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
2/7	6:00	総外貨準備高(USD)	1月	57.20bn	57.70bn	57.59bn
2/9	9:30	企業景況感指数	1月	94.1	92.5	92.8

(\*予想はブルームバーグ社予想中心値)

&lt;向こう1週間の見通し&gt;

(2月10日~2月16日)

USD/ZAR: 15.000~15.400

ZAR/JPY: 7.50~7.70

向こう1週間の南ア・ランド相場は、現地株価指数の動向次第。JSE全株指数は、上述の通り、9日に史上最高値を更新しており、それだけ見れば、まずはもう一段の上値を試す値動きが期待できる。しかし、それ以上に重要なのは、おそらく、ドル建で見た同指数。同ドル建指数は、手元のチャートで、2007年11月に4798、2011年4月に4991、2014年7月に4959、2018年1月に5208、昨年6月に5111と、5000ドルを挟んだ水準で天井を打って反落を繰り返しており、今般は9日までに5076まで水準を切り上げている。仮にこのドル建指数が、2018年1月の史上最高値を上抜けることがあれば、国外からの投資資金流入の加速、ランド続伸などが展望できるように思われる。もっとも、10日の一般教書演説や23日の予算発表が、南ア株上昇の呼び水になるような展開が想定できるわけではない。南ア政治(財政含む)に求められるのは、何よりもまず、ズマ前大統領時代(の汚職)との決別であり、国営企業健全化などであろう。しかし、現在までに、ラマポーザ大統領が、今年末の与党アフリカ民族会議(ANC)党首選、更には2024年春の総選挙(大統領選)までを視野に入れた長期戦略/漸進主義を採用しているのはほぼ明白になっており、生き馬の目を抜くような改革の進捗はもはや期待薄だろう。足元南ア株値を押し上げているのも、おそらくは南ア貿易/経常収支の改善(の長期化)であり、その背景でもある貴金属(金、プラチナなど)の堅調推移。であるならば、目先は、値動きの背景にある材料よりも、値動きそのもの=数字に踊らされたテクニカルな株価動向(注2)が、ランドの値動きにも最も重要な影響を与えるのではなかろうか。

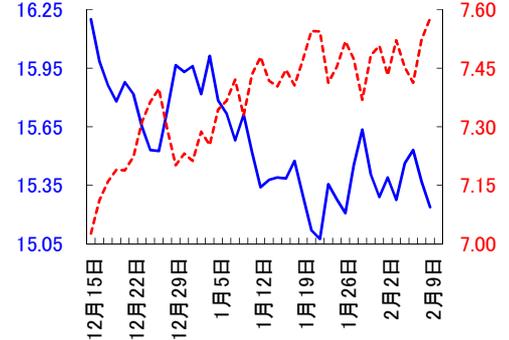
&lt;向こう1週間に発表予定の主要経済指標等&gt;

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
2/10	9:30	鉱業生産(前年比)	12月		+4.9%	+5.2%
	11:00	製造業生産(前年比)	12月		-1.4%	-0.7%
2/16	8:00	CPI(前年比)	1月			+5.9%
	11:00	小売売上高(前年比)	12月			+3.3%

(\*予想はブルームバーグ社予想中心値)

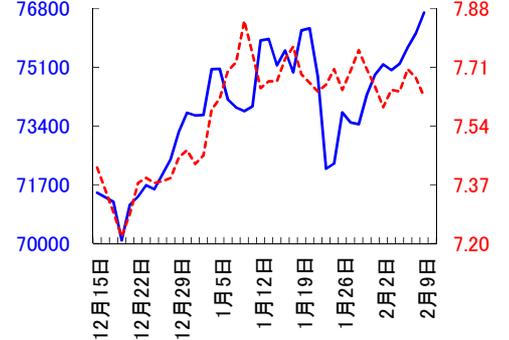
為替相場の推移(資料:ロイター)

実線/左軸:対米ドル、点線/右軸:対円



株式/長期金利の推移(資料:ブルームバーグ)

実線/左軸:JSE全株、点線/右軸:10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レボ金利)		4.00%
長期金利(10年スワップ)	2月9日	7.625%
株価指数(JSE全株)	2月9日	76690.92
成長率(GDP/前年比)	Q3	+2.9%
経常収支(ZAR)	Q3	+226bn
失業率	Q3	34.9%
消費者物価(前年比)	12月	+5.9%
小売売上高(前年比)	11月	+3.3%
製造業生産(前年比)	11月	-0.7%
鉱業生産(前年比)	11月	+5.2%
貿易収支(ZAR)	12月	+30.1bn
金価格(ロンドン 17:00)	2月9日	1832.69

(注1) 利回り低下=価格上昇にランド高、利回り上昇=価格下落にランド売り

(注2) 上抜けか、上抜け失敗かの二択

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。